

テーマ史

百年を駆け抜けた
技術と挑戦

初代社長 渡邊 嘉一

産業界の傑人：渡邊嘉一

今から100年前の1918（大正7）年、第一次世界大戦が終わった。この大戦中の電気機器等の輸入困難が東洋電機製造設立の発端となった。

渡邊嘉一は、渋沢栄一ら財界要人の賛同を得て会社設立主趣書を起草、東洋電機製造株式会社を設立し、自らが初代社長に就いた。これにより、輸入に頼ってきた鉄道車両用電気機器の本格的な国産化が始まったのである。

嘉一は、明治から大正、昭和初期にかけて多くの会社の創業時の経営に関与しており、日本が近代化を急いでいた時代の、いわば産業界の傑人といえる。しかし、功績の割にその名は著名とはいえず、彼の生涯を追った書物はほとんど著されていない。当社創立100周年を機に、彼が生きた時代背景とともに生涯を振り返ってみたい。

出生から少年期：幕末～明治維新

嘉一は、1858（安政5）年旧暦2月8日、長野県上伊那郡朝日村字平出に、宇治橋瀬八の次男として生まれた。母はゆう、6歳上に長男・八十太郎がいる。

安政・万延・文久・元治・慶応と続くこの時代は、のちに幕末と呼ばれる激動の時代である。嘉一が生まれた1858年には井伊直弼が幕府大老に就任し、安政の大獄を起こしている。先の見えない世情不安の中で嘉一は生を受け、多感な少年時代を過ごした。

信州伊那郡は地理上では深い山間部にあたる。しかし中山道が近く、江戸、上方双方の情報が豊富であった。加えて、古来幾度もの戦乱に置かれた地形上、生き延びるために高い教育レベルを育ててきた土地柄でもある。

聡明な頭脳をもって生まれた嘉一は、友輩らと野山を駆け巡りながらも、新しい時代の幕開けを予感しつつ育ったことであろう。あるいは、官軍が錦の御旗を先頭に、江戸へと向かう姿を自身の目で見たとのかもしれない。

むろん嘉一は、絶対権力を誇った徳川政権の全盛期を知らない。幕府に武力で立ち向かうなど、大人たちにとっては驚天動地の出来事であったが、少年嘉一には、乱世は不思議でもなければ不安もなかったに違いない。むしろ、これからやって来る新しい時代に胸を熱くしていたのかもしれない。

明治への改元は1868年9月8日、嘉一10歳7カ月の秋である。



初代社長 渡邊嘉一

1864（元治元）年、6歳で三澤源三の私塾に学んだ嘉一は、1873（明治6）年5月、松本町（現 松本市）開智に開校した開智学校に入学した。そして、ここで抜群の成績を残している。秀才嘉一の名は、すでに近隣で評判となっていたであろう。

青年期：上京～工部大学校～英国留学

そんな嘉一に目を見張り、惚れ込んだ人物がいた。横須賀海軍機関監督で横須賀造船所長を務めていた渡邊忻三である。開智学校に入学した翌年、嘉一は渡邊忻三の養子となることを前提に、勇躍上京した。そして1876年、工部大学校予備校に入学、翌年には工部大学校土木科に進学した。西南戦争が勃発するなど、世は騒然としていたが、嘉一は期待に胸を膨らませて大学校の門をくぐった。

明治初期の学生はとにかくよく学び、新しい国を背負っていくという意気込みに満ちていた。消灯後も、廊下の常夜灯の下で夜更けまで勉強をしたという。

また、工部学校教員の英国人が多く、講義はすべて英語で行われた。当然、生徒は必死で英語を学んだ。英国からやってきた教師の一人は、日本の生徒の優秀さ、勤勉さについて「世界のリーダーたる英国の大学生よりはるかに優れている」と賞賛したという。

工部大学校は6年制で、最後の2年間は実習となる。嘉一はこの実習で各地の土木工事を視察し、さらに東海道・中山道筋の鉄道敷設を予測しての工事の実地踏査を行うなど、精力的に歩き、学んだ。なお、実習に際しての費用は、諸掛りまで含めて工部省丸抱えであった。近代化に向けての人材育成が何よりも急務であった明治新政府の並々ならぬ決意がうかがえる。

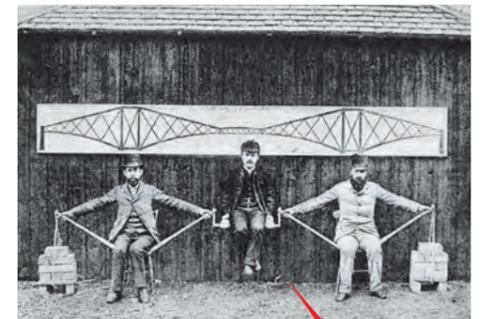
1883年、嘉一は工部大学校土木科を首席で卒業し、工部省に入省、鉄道局に勤務した。入省早々、日本鉄道上野・川口間鉄道敷設工事の監督を命じられているが、翌年には英国へ渡り、グラスゴー大学に入学した。そして、土木機械学の優秀な学生に贈られるウォーカー賞を受賞する。

1886年にグラスゴー大学を卒業した嘉一は帰国せず、ファウラー・ベーカー工務所に入社する。そしてすぐに技師となり、フォースブリッジ鉄道会社のフォース橋建設工事監督係となった。この時の、カンチレバートラス式構造を採用したフォース橋は、現在もエディンバラ市のフォース湾に架かっている。

2007（平成19）年に発行されたスコットランドの20ポンド紙幣の裏面にはこの橋がデザインされており、その脇に、3人の人間を使ってカンチレバートラス式構造を説明した写真が印刷されている。その中央に写っているのが、フォース橋建設に携わった若い頃の嘉一本人である。



フォース橋（資料提供：スコットランド国際開発庁）



カンチレバートラス式構造



スコットランド 20ポンド紙幣（裏）

1888年に嘉一はファウラー・ベーカー社を辞し、帰国した。日本を発ってから4年の歳月が流れ、嘉一は30歳になっていた。

経営者としての嘉一

帰国した嘉一は、日本土木会社（現 大成建設）の技術部長となり、国内各地の鉄道敷設の測量、工事に携わった。ここからの嘉一はますます忙しい。

1892年に日本土木を辞し、その後は多くの会社の創業時の経営に関与していく。生涯を通じて、役員として関わった会社は数十社にも及び、後世から見るとあまりにも多い感があるが、この時代の特徴として、中には人的つながりによる名義貸しのような役員就任もあったのかもしれない。時代のなせる業であろう。

こうした中、1897年に機関車の燃費向上燃焼器（燃油注射器）を発明し、特許を取得した。1899年には工学博士を授与され、日露戦役の際に勲五等瑞宝章に叙せられている。

1906年、京阪電気鉄道の創立委員に名を連ねた嘉一は同社の専務取締役役に推され、就任した。嘉一、48歳の時である。創立委員長は渋沢栄一で、渋沢は相談役に就いている。創立当初の京阪電気鉄道には社長職がなかったため、専務の嘉一が実質の経営トップであった。しかし、鉄道が開業した直後に会長職に退き、その後は取締役として、亡くなる前年の1931（昭和6）年まで、25年もの長きにわたって京阪電気鉄道の経営に関与した。

また、1912年には東京石川島造船所（現 IHI）の第3代社長に就いている。以後、1925（大正14）年まで社長職を務めた。嘉一が造船事業を手掛けるにあたっては、渋沢の強い勧めがあったという。渋沢は、実務者としての嘉一を高く買っていたのである。

そして、1918年6月20日、東洋電機製造を設立することとなった。設立後、初代社長に就いた嘉一は1931年までの13年間、社長職を務めた。

嘉一は、かくの如く多くの会社の経営に関わったが、専門は土木であったため土木学会の設立にも参画しており、日本土木史の父とも呼ばれた。また、帝国鉄道協会の会長や海事委員会委員、帝国経済会議委員などを務めるなど、公職においても幅広く活躍した。技術者としても経営者としても卓越した力量をもち、その功績も余人の及ばざるところであったが、本人が書き残した書物や書簡類は至って少ない。そのため、嘉一の思想や哲学などをうかがい知することは難しいが、嘉一の力の源は、使命感をもって臆することなく新しい時代を切り開いていった旺盛なチャレンジ精神にこそあったのではないだろうか。



35才ごろの渡邊嘉一（資料提供：三浦基弘）



渋沢栄一（資料提供：渋沢資料館）

私人としての嘉一

公人としての嘉一はまことに多忙な身であったが、一方、私生活の面でもなかなか尋常ではなかった。

工部大学校卒業の前年1882（明治15）年、嘉一は、工部大学校の校長を務めていた大鳥圭介の仲介により、渡邊忻三の長女・俣江と結婚した。新婦の俣江は9歳年下の15歳であり、嘉一は24歳で婿養子となった。

忻三は、眼を掛けた嘉一を早く縛りつけておきたかったのだが、俣江が幼かったため、長ずるまで待ったのであろう。嘉一自身はその辺のところをどう思っていたのか。人間嘉一を知る上では興味深い、手掛かりとなる資料はない。「義父には恩義もあることだし、大鳥校長の面子もあるし…」と腹をくくったのかもしれない。

1884年2月に俣江との間に長女・益江が生まれた。そして1888年、嘉一は英国留学・視察を終えて帰国した途端、小島さと女と知り合い、住まいを持っている。

嘉一の生真面目さは、それでも正妻の俣江をないがしろにすることなく、二人の女性の間を行き来しつつ、都合7男5女（英国留学の前に生まれた長女を入れると6女）をもうけた。

嘉一は日常生活においては厳しきの半面、優しい面もあったようで、子供はそれぞれ立派に成長している。ちなみに、小島さと女との間に生まれた三男の隆は指揮者として高名な朝比奈隆である。

また嘉一は、義太夫観劇中に周囲を気にせず大泣きするくらい感情豊かな人でもあったというから、あるいは抱腹絶倒、人情版渡邊嘉一伝もあるかもしれない。まことに興味の尽きない人間臭い一面に、嘉一の真骨頂を見ることができるのではなかろうか。

渋沢栄一が逝った翌年の1932（昭和7）年12月4日、古川阪次郎らの盟友に看取られ、嘉一は74年余の生涯を閉じた。胃癌であったという。

あれかこれかの選択ではなく、あれもこれもと、常に全力で生きてきた嘉一の人生には、維新の混沌の中から走り続けた明治人の息遣いがうかがえる。

自身の生涯に悔いはなかったことであろう。



渡邊嘉一とその家族（赤坂の自宅にて 資料提供：三浦基弘）



葉山の別荘にて家族と（資料提供：三浦基弘）